

米連邦最高裁：遺伝子に特許認めず（Myriad 事件）

毎日新聞 2013 年 6 月 14 日

米連邦最高裁は13日、人間から分離した遺伝子に対する特許について、①「自然の産物であり、（生体から）分離されただけで特許とするのは的確ではない」として認めない判決を下した。乳がんなどの血液検査に使われる②遺伝子の特許を一企業が独占し、検査費用が高くなっているなどとして、研究者らが特許の無効を訴えていた。判決で遺伝性乳がんが疑われる女性らが検査を受けやすくなる環境が整うとみられる。

検査は乳がん予防のため乳腺摘出手術を受けた米女優アンジェリーナ・ジョリーさんも受け話題になった。

訴訟で対象となったのは、がん抑制遺伝子。この遺伝子に変異すると乳がんや卵巣がんにつながる可能性があり、変異の有無を検査することで予防や治療に役立つ。しかし、検査に使う遺伝子の特許がミリアド・ジェネティクスにしかなく、費用は約3300ドル（約31万円）と高額だった。

判決は、特許を得ている遺伝子は人間から分離された「自然物」にすぎず特許は無効と判断した。③判決を受け、競合業者が市場参入の意向を表明。原告の研究者らは「より安価で検査を受けられるようになる」と歓迎した。

問1：下線①において、「自然の産物」は、なぜ、特許の保護対象とされないのか。

特許の保護対象は、「発明」であり、人間による「創作」である。自然の産物は、「単なる□」であって、「□」ではないことから、特許の保護対象ではないとされた。

問2：下線②において、「遺伝子の特許を一企業が独占し検査費用が高くなっている」という状況には、どのような理由が考えられるか。

特許によって市場を独占することにより、特許権者が□決定権を有し、検査費用が高くなる可能性がある。また、□に関する費用がコストとなり、検査費用が高くなる可能性もある。

問3：下線③において、「競合業者の市場参入」による問題は何か。

遺伝子に特許が付与されなければ、□の回収ができないため、遺伝子に関する基礎研究を行う□が低下し、バイオ医薬などの画期的な医薬品が生まれなくなる。